



☆江戸川区の環境測定に

参加して

東京都立産業技術高等専門学校

ものづくり工学科教授・吉田喜一

私は酸性雨調査研究会に参加して、簡易環境測定法の開発や地域環境測定のお手伝いを学生諸君とともにしてきました。これまで、墨田区（02年3月）、江東区（03年3月）、葛飾区（03年7月）、荒川区（04年3月）、江東区（05年3月）ディゼル規制後なので小規模の再測定）、足立区（05年7月）の環境測定に卒業研究・輪講の学生とともに参加しました。

今回江戸川区・実行委員会の要請で

06年7月25日の測定に参加しました。江戸川区は足立区と同様にかなり広い面積なので、26カ所を2つに別れて学生にレーザー粉塵計、ミニポンプを用いたSPM測定を、オートバイに乗ってやってもらいました。また何人かの

学生には地域の方々とともに交通量カウンタをしてもらいました。この種の集まりで20歳前後の若者が一緒に行動

することはかなり珍しい光景だったと思います。

私の母親は喘息でなくなりました。発作が起きると息を吐くことができず、おぼれたような状況になります。もがき苦しんで救急車を何度頼んだことか数えきれません。自分が生まれ育った荒川区に移りたいというので、私は家族と別居して母親と93年8月まで共同生活をしました。朝登校して昼にいったん戻り食事を作ります。再登校して夕方また戻ってきて、夕食後再登校し学生と実験、論文作成をしました。病院の看護師さん、ヘルパーさんと日程のプログラムを組んで介護しました。9月から私はマサチューセッツ大学に留学することになっていたので、お願いでいる町屋の生協病院に入院させてもらいました。

10月の亡くなる直前に国際電話で話すことができたのが最後でした。あのような死にいたる苦しみをどんな方（特に子ども）にも味あわせたくありません。

そして周りにいる方にもっと苦しさが伝わってきます。この喘息の原因は刑事コロナボと同じように犯人は分かっているのですが、科学的な証明が必要です。

この仕事を行政はもちろん、住民の方々と学校とが協力して行っていくかと思っています。



子供の安全は地域の「目」から

子供たちを狙った悪質な犯罪が横行する昨今、親御さんや学校・行政

の皆さんは対応に苦慮しているようです。私の小学生の頃（20年ほど前）と比べると、登・下校の際には数多くの警備ボランティアの方を見かけたり、ランドセルには物々しく「防犯ブザー携帯」と書かれたカバーが掛かっていたり、随分様変わりしたものです。

元来、下町には、商工業と住宅が密集して混在する独特の生活環境の中に、濃密ともいえる近所付き合いや、他人への関心が必然的に備わっており、時にそれは生活者の安心につながっていた面があります。

しかし、核家族化・産業構造の変化・再開発などに伴って、その良い面が徐々に失われつつあることは否めません。

コツ通りの私の店では、最近「わ

がまちあんしん110番」のステッカーを店頭に掲出しています。これは、区役所や区民事務所で

登録すると貰えるもので、子供たちが危険を感じた時に駆け込んでくれれば積極的に保護しますよ、という安心のサインであると共に、防犯への関心を表示することで犯罪の抑止をねらうものです。

警備活動や防犯ブザーと同じように、子供の安全には地域の「目」やコミュニケーションが欠かせません。今日もまた、店の前を下校の小学生が楽しそうに帰って行きます。



【消費生活アドバイザー 佐藤 祐一郎】

◆メガネのサトウ◆

南千住5丁目43の13 コツ通り
TEL 03 (3806) 4930

★営業時間のご案内★

平日・土曜：AM 10時～PM 7時30分
日曜・祝日：AM 11時～PM 6時30分

◎11月26日（日）、12月6日（水）は休業いたします。よろしくお願ひします。

